

SMB Cファンドラップ・日本グロース株

追加型投信／国内／株式

日経新聞掲載名：FW日グ

2024年9月26日から2025年9月25日まで

第19期 決算日：2025年9月25日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の株式へ投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

当期の状況

基準価額(期末)	14,100円
純資産総額(期末)	126,519百万円
騰落率(当期)	+13.4%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

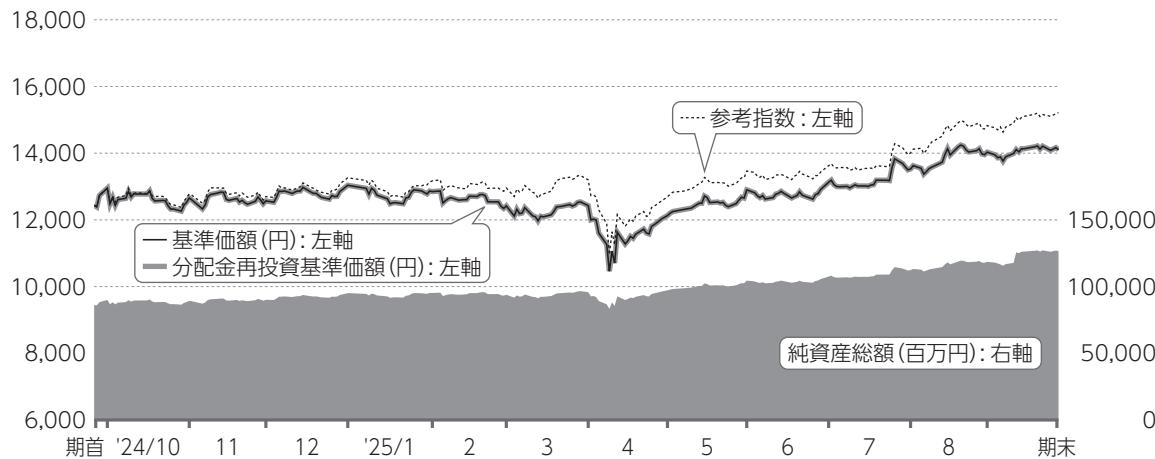
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

[閲覧方法]<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指標は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	12,436円
期 末	14,100円 (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	+13.4% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指標は、TOP INDEX(東証株価指数、配当込み)です。

※参考指標は、基準価額への反映を考慮して、前営業日の終値を採用しています。

※指標の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の株式へ投資しました。

上昇要因

- 個別銘柄では、楽天銀行、豊田通商の保有などがプラスに影響しました。
- 業種別では、情報・通信業を参考指標よりも高め、食料品を参考指標よりも低めの組み入れとしていたことなどがプラスに影響しました。

下落要因

- 個別銘柄では、シスメックス、信越化学工業の保有などがマイナスに影響しました。
- 業種別では、銀行業を参考指標よりも低め、化学を参考指標よりも高めの組み入れとしていたことなどがマイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	30円	0.231%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は12,780円です。
(投信会社)	(21)	(0.165)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(4)	(0.033)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(4)	(0.033)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	0	0.002	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回 金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(-)	(-)	
(監査費用)	(0)	(0.002)	
(その他)	(-)	(-)	
合計	30	0.232	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

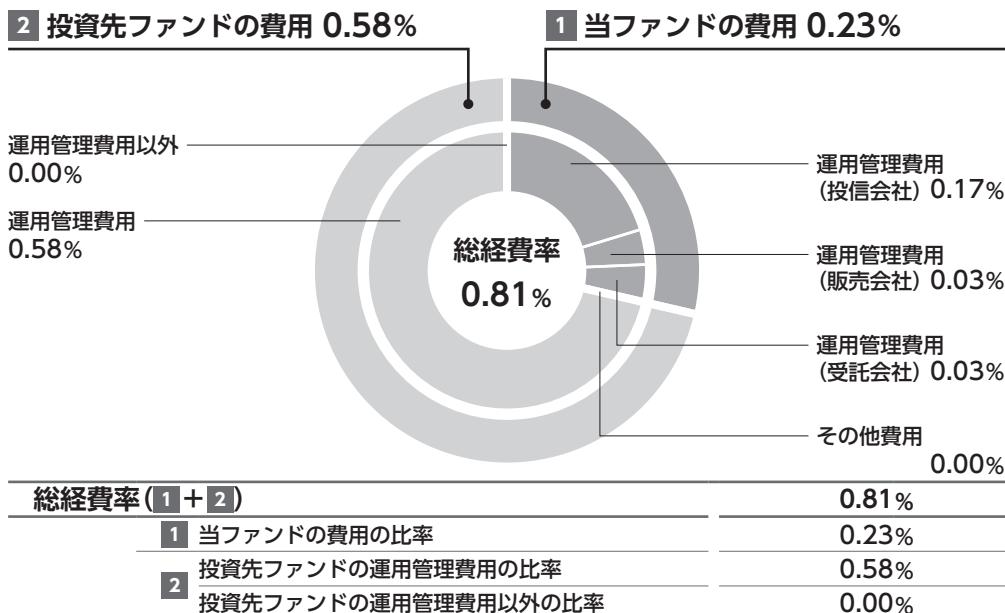
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



※①の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※②の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、「1万口当たりの費用明細」をもとに、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※①と②の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は0.81%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2020年9月25日から2025年9月25日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2020年9月25日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2020.9.25 決算日	2021.9.27 決算日	2022.9.26 決算日	2023.9.25 決算日	2024.9.25 決算日	2025.9.25 決算日
基準価額 (円)	10,120	12,898	10,525	11,475	12,436	14,100
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	27.5	-18.4	9.0	8.4	13.4
参考指標騰落率 (%)	—	31.3	-6.1	27.4	14.4	22.3
純資産総額 (百万円)	44,503	60,270	59,784	70,383	86,134	126,519

参考指標について

※参考指標は、基準価額への反映を考慮して、前営業日の終値を採用しています。

※参考指標は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指標として記載しています。

投資環境について(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

国内株式市場は上昇しました。

期初から2025年3月までは日本企業の相次ぐ自社株買いの発表、FOMC(米連邦公開市場委員会)による追加利下げなどにより上昇しました。

しかし2025年4月前半には、トランプ米政権による貿易相手国に対する相互関税の詳細発表を

受けて大幅に下落しました。特に、米中の対立による貿易摩擦激化への懸念が高まりました。

それ以降は、日米の関税交渉の進展やFOMCによる利下げ、AI関連銘柄への期待などから大きく上昇に転じました。

ポートフォリオについて(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

当ファンド

期初より、主要投資対象である「ノムラ FOF s用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)」を高位に組み入れました。

ノムラ FOF s用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)

基本方針として、実質の株式組入比率は高位を維持します。当ファンドは、[ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド](以下、マザーファンド)を高位に組み入れました。

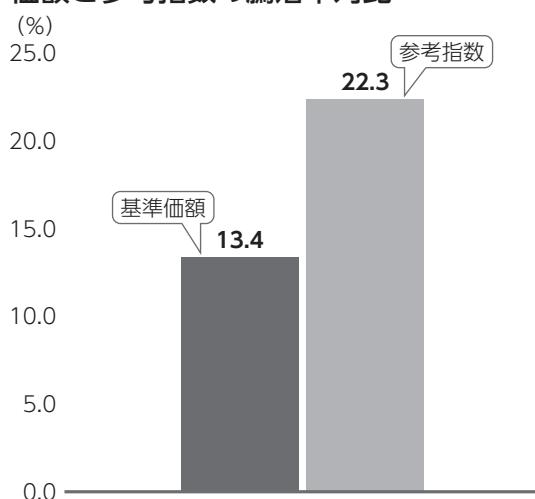
マザーファンドでは、期末の保有銘柄数を66銘柄としました。期中の投資行動としては、中長

期的な国内DX需要の継続性に加え、価格引き上げ、開発内製化等の収益性改善の取組みの持続性に対し確信度が高まり、高いROE(株主資本利益率)の維持ができると判断した富士通、関税見直しに日途がつき業績下振れの可能性が低下しつつあると判断したトヨタ自動車などを買い付けしました。一方で、株価が大きく上昇したソフトバンクグループなどを売却しました。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の国債を中心とした運用を継続しました。

ベンチマークとの差異について(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比

※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてTOPIX(東証株価指数、配当込み)を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について(2024年9月26日から2025年9月25日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第19期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	7,895

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの收益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたします。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、運用の基本方針に従い、投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の株式へ投資します。

ノムラFOFs用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)

短期的な株価変動は相場環境に左右されますが、中長期的な株価形成は株主資本の積み上がりに応じてなされると考えます。したがって当ファンドでは、個別企業の調査・分析等を中心とした「ボトムアップアプローチ」により、企業の「強さ」と「伸び」をベースに、中長期にわたり高いROEを継続し株主資本を着実に積み上げると予想される

企業を中心とした投資を行っていく考えです。

IT(情報技術)、自動化、省エネルギー、ヘルスケアなどの市場は着実に拡大していくと考えております。こうした成長分野で高い競争力と強固な収益構造を持ち、成長を継続することが可能な企業の見極めに重点を置いた企業分析・銘柄選別を行なっていきます。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

引き続き安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債を中心とした運用を行なっていきます。ファンドの平均残存年限については、2~4ヶ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

3 お知らせ

約款変更について

- 投資助言会社を「SMB C日興証券株式会社」から「SMB Cグローバル・インベストメント&コンサルティング株式会社」へ変更することに伴い、信託約款に所要の変更を行いました。
(適用日：2024年12月20日)
- 投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。
(適用日：2025年4月1日)

交付運用報告書の電磁的方法による提供(電子交付)の推進について

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われました。受益者の皆さまへの交付運用報告書の提供に関する規定について、従来は書面交付を原則としていましたが、書面交付または電磁的方法(電子メールへのファイルの添付、販売会社等のホームページにアクセスして閲覧等)による提供のいずれかに変更されました。

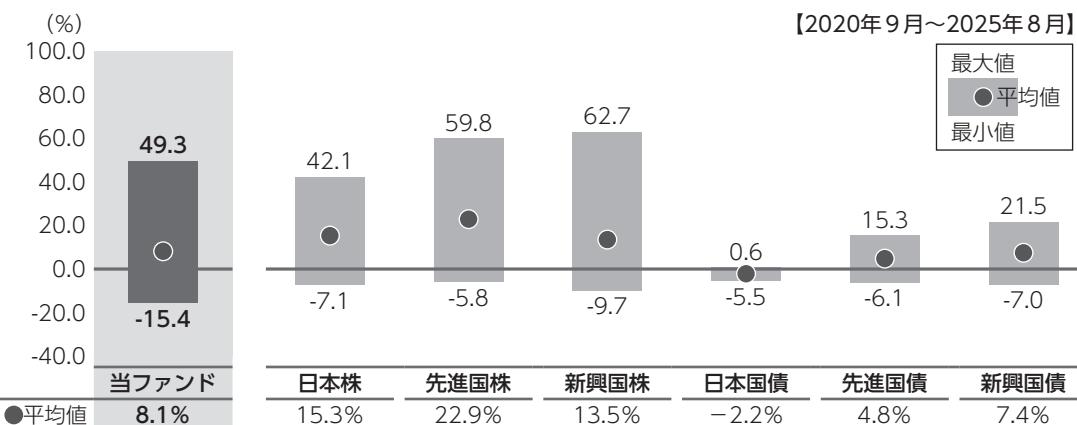
交付運用報告書を電磁的方法で提供することにより、書面の印刷および配送にかかる期間が短縮され、受益者の皆さまが、より早期に交付運用報告書をご覧いただくことや、時間や場所を問わずにご覧になることが可能になると考えられます。また、ペーパーレス化が推進されることにより、森林資源の保護や印刷・配送に伴う二酸化炭素の排出量の削減につながることが期待されます。

今後、電磁的方法による提供を実施することに関し、受益者の皆さまに事前告知等が行われますが、希望される場合には引き続き書面交付をすることも可能です。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法による交付運用報告書の提供を進めてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式
信 託 期 間	無期限(設定日：2007年2月20日)
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の株式へ投資します。 当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ノムラ FOF's 用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用) ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 本邦貸建て公社債および短期金融商品等
主 要 投 資 対 象	
当 フ ァ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■投資する投資信託証券は、わが国の株式を主要投資対象とし、成長性を重視し、アクティブ運用を行うことを基本とするものとします。 ■指定投資信託証券の選定、追加または入替えについては、SMB Cグローバル・インベストメント＆コンサルティング株式会社からの助言を受けます。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への直接投資は行いません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年9月25日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。) </div>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指標

日本 株	TOPIX (東証株価指数、配当込み)
	株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国 株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース)
	MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国 株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース)
	MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本 国 債	NOMURA-BPI(国債)
	野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国 債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
	FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の中債を対象としています。
新興国 債	JPMモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)
	J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指標に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指標の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

⑥ 当ファンドのデータ

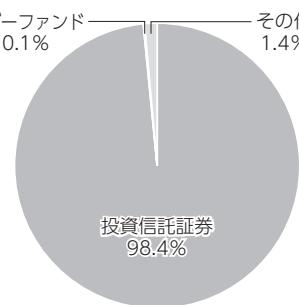
当ファンドの組入資産の内容(2025年9月25日)

組入れファンド等

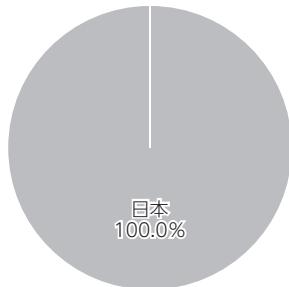
銘柄名	組入比率
ノムラFOFs用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)	98.4%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.1%
コールローン等、その他	1.4%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

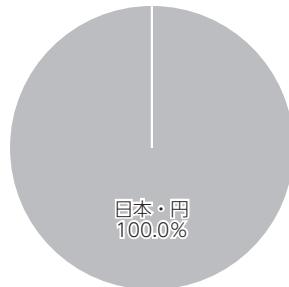
資産別配分(純資産総額比)



国別配分(ポートフォリオ比)



通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第19期末 2025年9月25日	
純資産総額	(円)	126,519,511,141
受益権総口数	(口)	89,730,090,457
1万口当たり基準価額	(円)	14,100

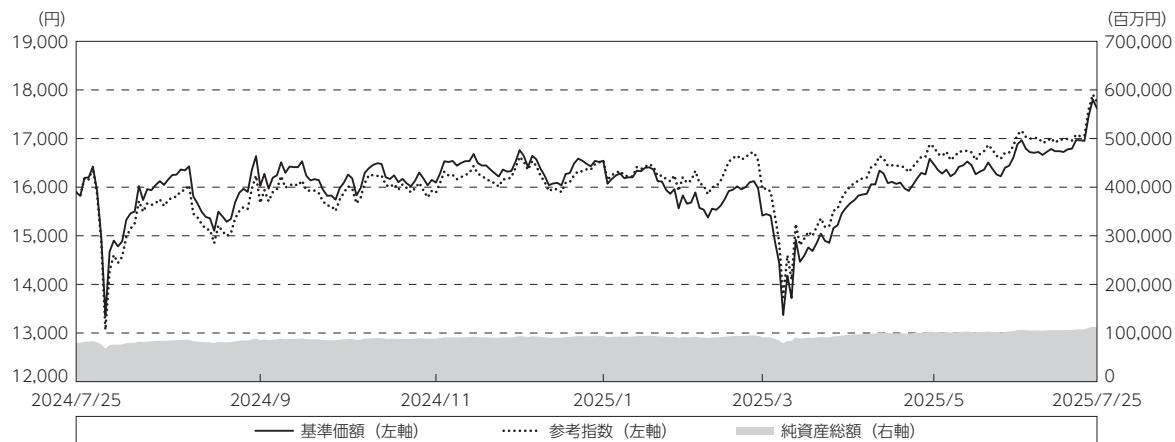
※当期における、追加設定元本額は26,634,110,732円、解約元本額は6,166,136,109円です。

組入上位ファンドの概要

ノムラF O F s用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)
(2024年7月26日から2025年7月25日まで)

期中の基準価額等の推移

(2024年7月26日～2025年7月25日)



期首：15,897円

期末：17,619円

騰落率：10.8%

(注) 参考指数は、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)です。参考指数は、作成期首(2024年7月25日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

1万口当たりの費用明細

(2024年7月26日～2025年7月25日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社)	円 95 (89)	% 0.588 (0.550)	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(2)	(0.011)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内のファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(4)	(0.027)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料 (株式)	10 (10)	0.064 (0.064)	(b) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用)	1 (1)	0.003 (0.003)	(c) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	106	0.655	
期中の平均基準価額は、16,196円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しております。

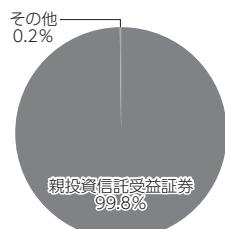
組入資産の内容

(2025年7月25日現在)

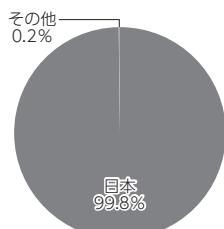
○組入上位ファンド

銘柄名	第7期末
	%
ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド	99.8
組入銘柄数	1銘柄

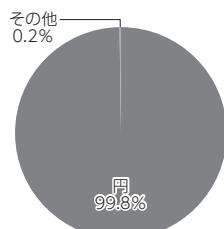
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

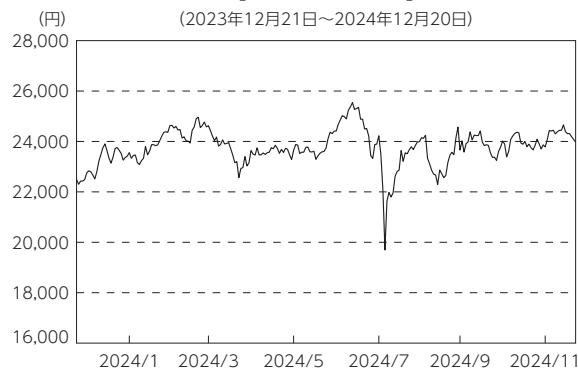
以下は、ノムラFOFs用・ジャパン・アクティブ・グロース(適格機関投資家専用)が組み入れているファンドです。

ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2023年12月21日～2024年12月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2023年12月21日～2024年12月20日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	20 (20)	0.085 (0.085)
合計	20	0.085
期中の平均基準価額は、23,895円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しております。

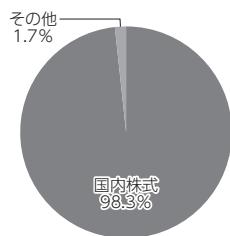
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しております。

【組入上位10銘柄】

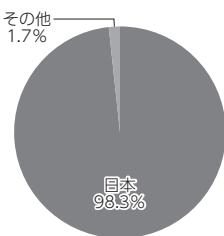
(2024年12月20日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1	日立製作所	電気機器	円	日本	4.8%
2	リクルートホールディングス	サービス業	円	日本	4.0
3	ソニーグループ	電気機器	円	日本	3.7
4	東京海上ホールディングス	保険業	円	日本	3.4
5	キーエンス	電気機器	円	日本	3.2
6	信越化学工業	化字	円	日本	3.1
7	伊藤忠商事	卸売業	円	日本	3.0
8	ファーストリテイリング	小売業	円	日本	2.9
9	HOYA	精密機器	円	日本	2.4
10	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	2.4
	組入銘柄数		69銘柄		

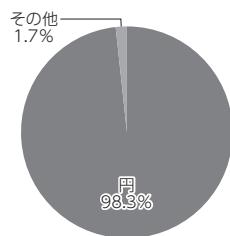
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。